

平成 24 年度第 6 回 産業応用部門論文委員会主査会議 議事録 (案)

1. 日時 平成 25 年 3 月 14 日(木) 13:00-15:00
2. 場所 トラック健康保険会館
3. 出席・欠席者 (敬称略) :

○出席

竹下 (編集長、名古屋工業大学)、寺田 (副編集長、徳島大学)、村上 (編集長補佐、慶応義塾大学)、姉崎 (ゲストエディタ、沖縄高専)、船渡 (24 年度 D1 主査、宇都宮大学)、綾野 (24 年度 D1 副主査、東京高専)、中沢 (25 年度 D1 副主査、東芝、記録)、三野 (D1 幹事、富士電機)、森實 (D1 幹事、大阪工業大学)、山口 (24 年度 D2 主査、リコー)、岩崎 (24 年度 D2 副主査、名古屋工業大学)、満倉 (D2 幹事、慶應義塾大学)、村井 (24 年度 D3 主査、東海旅客鉄道)、野口 (24 年度 D3 副主査、静岡大学)、川村 (D3 幹事、東芝三菱電機産業システム)、廣塚 (D3 幹事、中部大学)、森下 (D3 幹事、工学院大学)、山本 (D3 幹事、鹿児島大学)、山本 (D3 幹事、職業能力開発大学)、道木 (24 年度 D4 主査、名古屋大学)、叶田 (24 年度 D4 副主査、日立製作所)、浜松 (25 年度 D4 副主査、日本大学)、宮武 (D4 幹事、上智大学)、亀井 (24 年度 D5 主査、三菱電機)、近藤 (24 年度 D5 副主査、千葉大学)、市川 (D5 幹事、工学院大学)、鈴木 (D5 幹事、筑波大学)、大石 (英文論文誌編集長、長岡技術科学大学)、横山 (D6 主査、東京電機大学)、藤田 (D6 副主査、東京工業大学)、芳賀 (D6 幹事、長岡技術科学大学)、柴田 (D7 主査、成蹊大学)、藤本 (D7 副主査、横浜国立大学)、石川 (D7 幹事、東京電機大学)、小坂 (D8 副主査、名古屋工業大学)、大山 (副部門長、ダイキン)、森本 (次期編集長、東海大学)、星 (新任 D1 幹事、東京理科大学)、山本 (新任 D3 幹事、明電舎)、榎本 (新任 D3 幹事、日立製作所)

×欠席

小田 (ゲストエディタ、千歳科学技術大学)、佐藤 (ゲストエディタ、千葉大学)、庄山 (D1 幹事、九州大学)、内村 (D2 幹事、芝浦工業大学)、駒田 (D2 幹事、三重大学)、高橋 (25 年度 D2 副主査、香川大学)、樋口 (25 年度 D3 副主査、長崎大学)、山中 (D5 幹事、東芝)、結城 (D5 幹事、東芝)、赤津 (英文ゲストエディタ、芝浦工業大学)、伊東 (英文ゲストエディタ、長岡技術科学大学)、長谷川 (英文ゲストエディタ、中部大学)、久保田 (D8 主査、明治大学)、河村 (部門長、横浜国立大学)、和田 (新任 D1 幹事、首都大学東京)、藤本 (新任 D2 幹事、東京大学)、真田 (新任 D4 幹事、大阪府立大学)、古関 (新任 D5 幹事、東京大学)

4. 提出資料

- H24-6-0 平成 24 年度第 6 回 D 部門主査会議事 (寺田)
 - H24-6-1 第 5 回産業応用部門論文委員会主査会議 議事録 (案) (綾野)
 - H24-6-2 電子査読システム運用状況 (寺田)
 - H24-6-3 特集号の論文処理状況 (寺田)
 - H24-6-4 論文委員候補者推薦用紙 (川村)
 - H24-6-5 2013 年度論文委員会改選案 (竹下)
 - H24-6-6 主査会役割分担表 (案 ver.2) (竹下)
(D 部門 2013 年 1 月～+共通英文誌)
 - H24-6-7-2 論文査読における照会文、返送文の書き方について (竹下)
 - H24-6-8 電気学会論文誌の Extended Summary の廃止について (竹下)
 - H24-6-9 D 部門 論文賞 推薦書 (D1,D2,D3,D5)
 - H24-6-10-1 解説論文関連(竹下)
 - ・解説論文「掲載料」に関する D 部門の運用について
 - ・平成 24 年度第 3 回編修会議議事録
 - ・解説論文の提案について (案)
 - H24-6-10-2 平成 24 年度第 4 回産業応用部門役員会議事録 (案) (竹下)
- 資料番号なし 電気学会論文誌 D の査読が論文指導になっていることへの抗議書 (竹下)

5. 議事

5.0 自己紹介

出席メンバーがそれぞれ自己紹介を行った。

5.1 前回議事録の確認

前回議事録が承認された。

5.2 電子査読システム運用状況

資料 24-6-2 に基づき、電子査読システム運用状況の報告があった。

部門英文論文誌投稿件数についても、査読状況の説明があった。

5.3 特集号状況確認

24-6-3 に基づき、特集号「産業計測制御全般」1件に関する論文査読状況説明があった。11件すべて掲載。和文特集号少ない。

部門英文論文誌の投稿状況説明があった。

5.4 論文委員の推薦について

24-6-4 に基づき新規論文査読委員候補者推薦があった。審議の結果、承認された。

同資料に基づき辞退が審議され、承認された。

5.5 次期論文委員会幹事団構成について

部門英文論文誌の各グループ主査、副主査、幹事委員の紹介報告があった。2012年度と2013年度とは同一。

24-6-5 に基づき、2013年度論文委員会改選メンバーの紹介報告があり、特にコメントなかった。この後の役員会での承認審議にはかられる。2014年度以降、D4、D5は主査、副主査を兼任することになっているため、2013年度の副主査は浜松先生で兼任となっている。新幹事で1年に満たない方がいたが、審議の結果、幹事となっただくことで承認された。

5.6 主査会役割分担について

24-6-6 に基づき説明された。部門共通論文誌論文委員会から編修広報委員会との情報橋渡し担当を、部門共通論文誌論文委員会から選出いただくことになった。これに対し部門共通論文誌論文委員会の大石編集長から、部門共通論文誌論文委員会のHP担当を情報橋渡し担当として選出する旨回答があった。担当者を編修広報委員会の委員として任命登録してメーリングリストに入るようにする。大石委員長から大山委員長に担当者を連絡する。

和文論文誌論文委員会から研究調査運営委員会へのオブザーバ委員（特集号の企画のお願い、橋渡しが主目的）について、次年度交代の申請・申し送りを行うように、現担当の近藤委員にお願いがあった。

5.7 論文幹事の査読判定について

24-6-7-1 により、2013年1月から運用開始している新査読フローについて、部分修正をする旨の説明があった。1回目の査読結果がC,Dで、再査読結果がA,Bのときに1名追加再査読となっていたが、通常の電気学会査読フローと同様に再査読結果がAの場合は掲載可、Bの場合は再照会のものに再再査読とするようにフローの見直しが部分修正の内容。A,D判定の場合は、照会できない場合が多いので、照会せずに第三追加査読とするように変更するべきでないかとの意見があった。議論の結果、査読の結果によって主査・副主査・幹事が都度判断する運用する方針として、フローは資料の通り変更しないこととした。

24-6-7-2 により照会文、返送文の書き方についての過去の資料説明があった。以下3点が、照会文、返送文の書き方におけるポイントだが、問題がある場合が散見されるようになってきており、再徹底する必要がある。

- ・動かし難い事実、根拠に基づいて的確、簡潔に書かれていること
- ・再度の紹介などで新たな照会事項が追加されていないこと
- ・過度の指導的照会になっていないこと

文章を定型化するということではなく、著者が納得するように記載するということが重要ではないかとの意見

があった。返送文になっていない場合に幹事が書きなおしている場合があるが、著者に返して書き直しをお願いするかを幹事と主査が相談するなどが必要との議論があった。判定は B だが、内容は修正を要求した C 判定に近いものであるケースが一番問題になるとのコメントがあった。主査・幹事が責任・意志を持って修正することでよいが、査読者が勘違いしている場合もあるので、出来るだけ査読者に返して問い合わせすることも必要との意見があった。電子化・メール化により直接顔を合わせて正しい方向に調整するということが希薄になってきている。何度か顔を合わせて議論する継続的な仕組みづくりとともに、査読者のレベル維持のための仕組みづくりが必要で、2つを分けてそれぞれ議論すべきとの意見があった。現状も、主査会の後に意見交換している査読グループが多いが出席率が課題。年に1回でもよいので全員で集まって、意見交換が必要。照会文・返送文の書き方の周知の方法が課題。部門大会の意見交換会で連絡しているが時間が短いので不十分。査読者のトップページに、照会文の書き方注意事項を入れる（現状も、過度の研究指導にならないようにということ書かれている）ことで進めることになった。査読依頼のときに、幹事から査読者への注意事項・連絡事項の連絡ができないシステムであることが課題との意見があった。システムをみなおすことは難しいので別メールで連絡するなど対応している。

5.8 Extended Summary について

24-6-8 により、電気学会論文誌の Extended Summary の廃止が提案された。いままでは部門英文論文誌がなく、外国人向けのサービスの低下防止、インパクトファクターの獲得のために、継続したかったが、部門英文論文誌ができたので必要性が低下した。審議の結果、廃止することで承認された。役員会審議にかける。

5.9 論文査読功労賞、部門論文賞について

24-6-9 により論文賞推薦書の説明があった。各グループとも、主査、副主査、幹事の投票で推薦候補決定した。D4 グループについては、集計が間に合わなかったため、次回表彰委員会（5月中旬以降）に間に合うように4月中旬までに推薦候補を提出することになった。グループ間の総論文数の差に対して、論文賞推薦数の考慮が必要ではないかとの問題提起があった。論文数が多いグループでは2件推薦することも検討する。表彰規定では英文論文誌も含めて年6論文以内（内訳は論文委員会主査会に一任）となっていることを確認した。審議の結果、D1～D5 の各グループ1件合計5件プラス、D1～D3 で掲載論文数が最多の部門からもう一件推薦いただくことになった。提出された4件については、推薦することで承認された。

5.10 役員会報告

24-6-10-2 により役員会議事の説明があった。解説論文の掲載料については24-6-10-1 の資料に基づき次回役員会にはかれる。

5.11 その他

論文査読が論文指導になっていることへの抗議書について報告があった。論文指導がなされていることが問題だという議論であったが、論文指導の定義を明確にするべきだという意見が多くあった。確認事項として、2名再査読時に他の査読者の照会事項とそれに対する回答文に対してコメントをすることは禁止されているのかとの質問があったが、禁止されている項目ではない旨確認された。担当グループで回答案審議して正式回答してもらうことになった。

5.12 次回開催日

2013年6月4日（火）13:30–15:30
（偶数月の第一火曜日を基本とする。）